

道内空港における現状・課題及び対応方針(案)

航空港湾ワーキンググループ

平成27年6月

各空港の現状・課題及び対応状況の把握

- 航空局において、平成27年2月、訪日外国人旅行者の一層の受入促進の観点から、国管理空港（新千歳他4空港）の国際線施設等の現状・課題等の調査を実施。
- また、平成27年3月に設置された「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた北海道ブロック連絡会」のWGである「航空港湾WG」での検討に資するため、平成27年4～5月にかけて北海道内の地方自治体が管理する空港（旭川他6空港）の国際線施設等の現状・課題等の調査を実施。

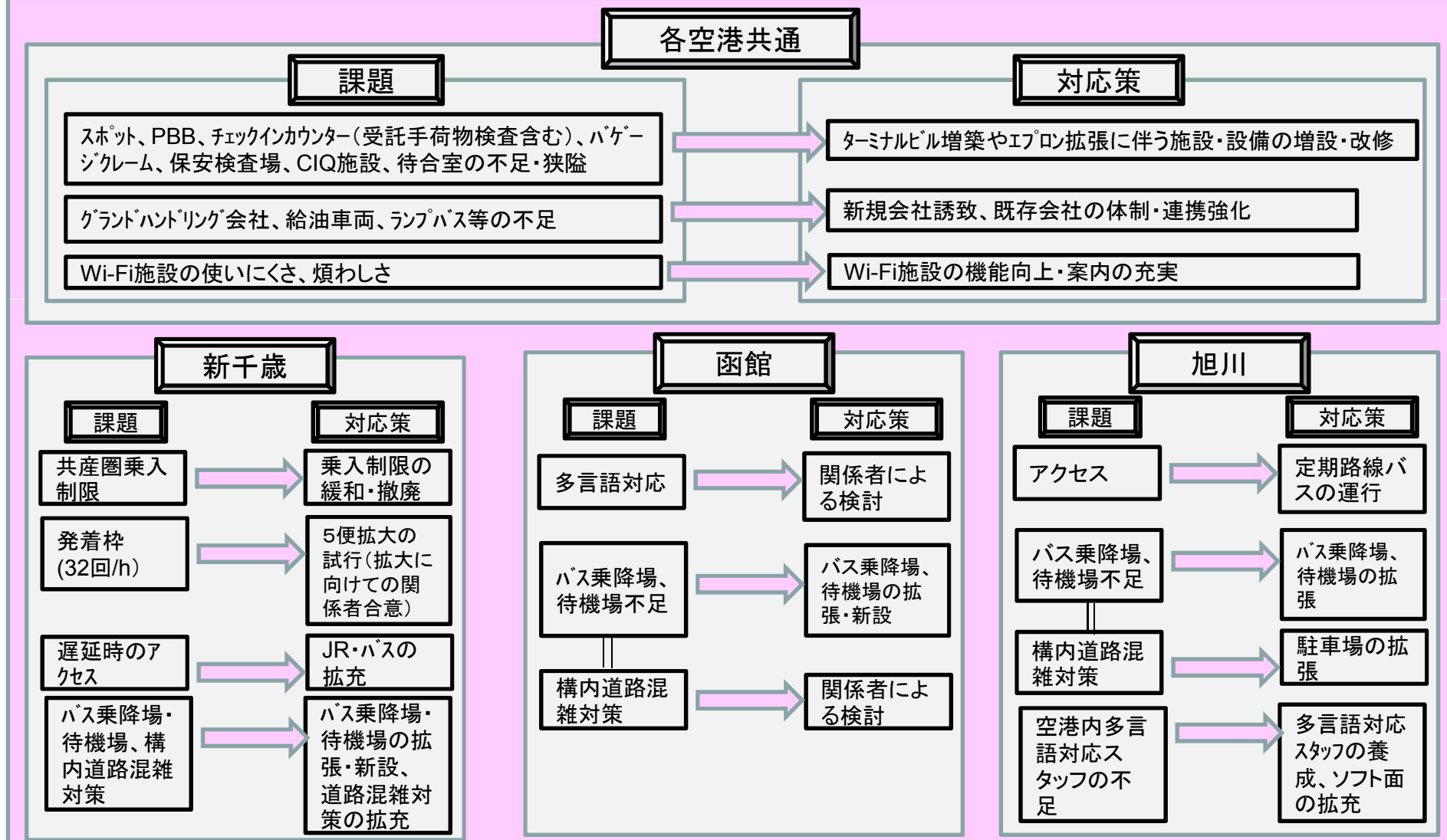
調査結果の整理の前提・考え方

- 今後の検討をスピード感をもって効率的・効果的に進める観点から、現在の国際線就航状況、施設等が空港毎に異なっている現状を踏まえ、道内12空港を以下のとおり区分し、整理した。
 - ・基幹空港：国際線定期便・チャーター便が就航し、かつ、CIQ施設設置済空港
 - ・準基幹空港：国際線定期便・チャーター便が就航しているが、CIQ施設未設置空港
 - ・補完空港：国内線のみ就航している空港
- 本資料作成にあたっては、①調査が書面調査のため現場の確認が不十分であること、②空港毎に国際線就航状況や現状施設が異なっていること等から、今後の検討事項になる可能性も考慮して整理している。
- なお、補完空港については、国際線が就航していない現状を踏まえ、訪日外国人旅行者の国内移動の利便性向上という観点で整理している。
- 以上から、今後の検討にあたっては、本調査結果を参考にしつつ、各空港の状況を十分に精査しながら進める必要がある。

【基幹空港まとめ】国際線利用者施設等の現状・課題及び対応方針(案)

～訪日外国人旅行者2000万人の受入促進に向けて～

- 国際定期路線が就航し、かつ、CIQ施設が整備されている空港は、新千歳、函館、旭川の3空港である。
- この3空港について、共通・個別の課題、対応策をまとめると、概ね以下のとおり。
- なお、新千歳空港については、平成27年1月から、関係17機関により「国際航空便の受入円滑化に向けた検討会」を設置・開催し、対応策の検討を進めている。



【基幹空港調査結果】国際線利用者施設等の現状・課題及び対応方針(案)



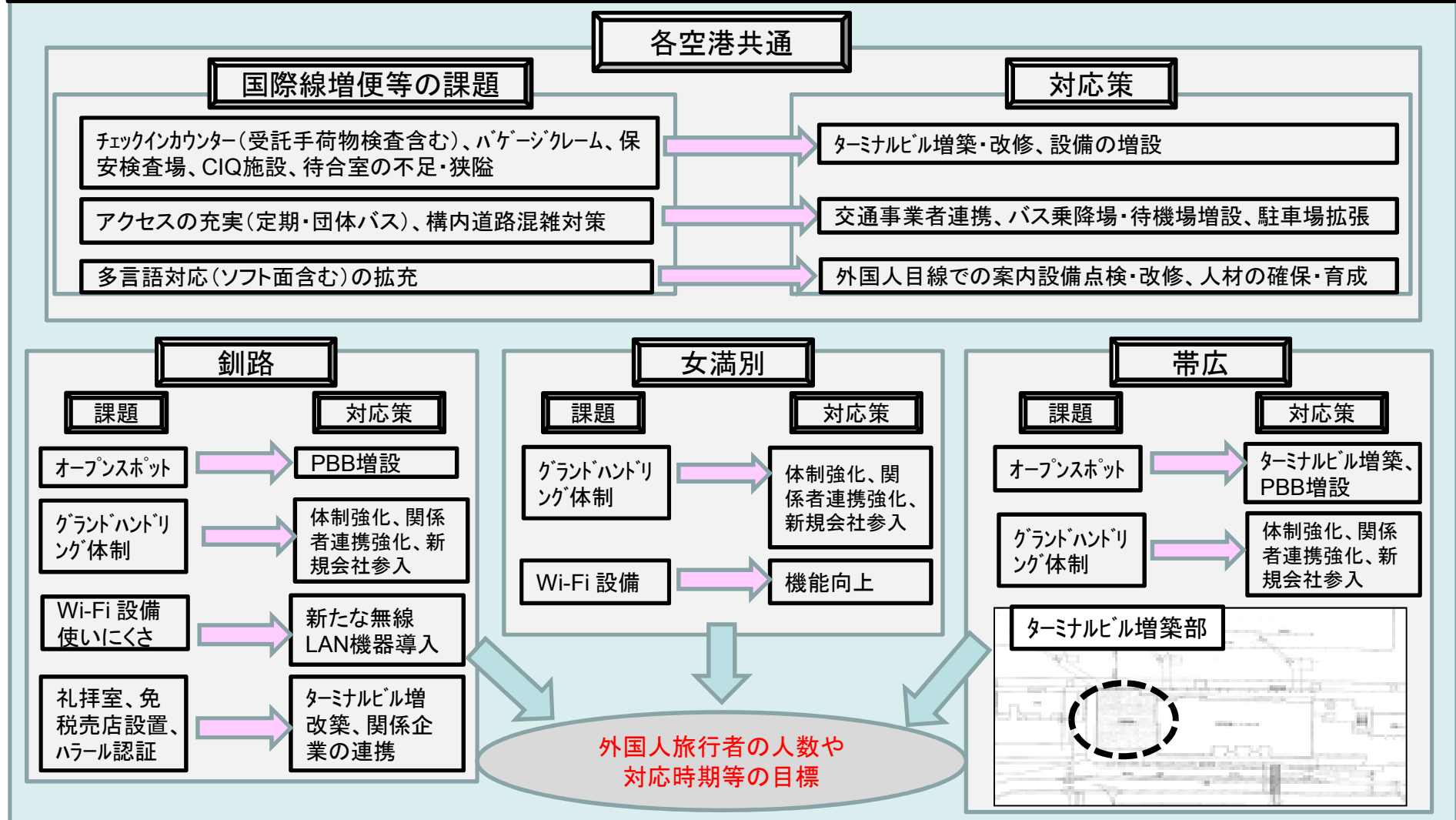
～訪日外国人旅行者2000万人の受入促進に向けて～

	新千歳 (H26年国際線:155万人)			函館 (H26年国際線:16.2万人)			旭川 (H26年国際線:14.3万人)		
	現状	課題	対応	現状	課題	対応	現状	課題	対応
スポット数(国際)	6	ハイランド未設置。給油車両・送迎バス不足	ターミナルビル・エプロン拡張	3 (中型2機使用時は2スポット)	無	—	1 (中型)	2便対応不可、クリーンエリア使用制限(内際兼用)	ターミナルビル・エプロン拡張
運用時間 (条件含む)	24H(実運用7時～22時)※深夜6便	共産圏乗入制限(火・水12時～16時、金17時以降、土日)	乗入制限の緩和又は撤廃	13H (7:30～20:30)	無	—	13H (8:00～21:00)	無	—
発着枠	32回/H	10時～12時は国内線で満杯	5便拡大の試行(7/25,8/8～16)	無	無	—	無	無	—
PBB数 (国際線)	5基(6スポット)	便の集中で不足	ターミナルビル・エプロン拡張	1基	冬季のオープンスポット使用	増設を検討	1基	遅延発生時は不足	ターミナルビル機能拡充検討
グランドハンドリング状況	3社	チャーター便、新規就航の対応不可	体制強化、便の平準化、新規会社参入	2社	無	—	2社	自社便優先。国際線受入制限。	体制強化を検討
チェックインカウンター (受託手荷物含む)	36箇所	便の集中で不足	H27.2月増設済。ビル拡張	4箇所	狭隘解消	検討	1箇所	狭隘。複数社対応不可。	ターミナルビル拡張、グランドハンドリング体制強化
バゲージクレーム (到着)	2基	便の集中で不足	ビル拡張時増設	1基	狭隘解消	検討	1基	便の集中で不足	ターミナルビル機能拡充検討
保安検査 (出発)	3レーン インライン機器3台	便の集中で不足 便の集中で能力不足	ビル拡張時増設 H27.3月増設済。 検査時間拡大	1レーン 受託手荷物検査器1台	狭隘解消	検討	1レーン 受託手荷物検査器1台	無	ターミナルビル機能拡充検討
CIQ施設	有	入国に2～2.5H要す場合あり	H27.10審査ブース増設(10→18)	有	施設の狭隘解消 審査時間の短縮	入管増員及び審査ブース増	有	狭隘解消	ターミナルビル機能拡充検討
Wi-Fi施設	有	無制限、弱電エリアあり	今後検討	有	無	—	有	回数制限有、メール認証・登録カード	今後検討
アクセス	JR、バス、タクシー、自家用	遅延発生時にタクシーのみ	今後検討	バス、タクシー、自家用	無	—	バス、タクシー、自家用	国際線発着に合わせ運行	—
団体バス乗降場・待機場	乗り場4、降り場4(路線バス共用)	便の集中で不足。 バス増加対応	団体バス乗降場拡張・新設	10台	観光シーズン時の不足	—	14台	国際線や便の集中時に混雑	団体バス乗降場・駐車場拡張
構内道路	路駐、駐車場不足等により混雑	バス増加への対応	今後検討	混雑無し	無	—	時間帯により混雑	バス増加への対応	団体バス乗降場・駐車場拡張
その他(国際線エプロンに至る走行経路・千歳空港)	国内線エプロンの影響を受け到着・出発動線が輻輳し渋滞	輻輳を生じる走行動線の円滑化	国際線エプロンに直接至る走行経路の確保		無	—	空港内多言語対応スタッフの不足	多言語対応の充実(ソフト面)	—

【準基幹空港まとめ】国際線利用者施設等の現状・課題及び対応方針(案)

～訪日外国人旅行者2000万人の受入促進に向けて～

- 国際線が就航し、かつ、CIQ施設が未整備(臨時対応)の空港は、釧路、女満別、帯広の3空港である。
- この3空港について、国際線の増便等、訪日外国人旅行者が増加する場合には、以下の対応が必要になると考えられる。
- なお、帯広空港については、平成29年度早期の供用を目指し、今後、ターミナルビルの拡張等、必要な整備を進めることにしている。



【準基幹空港調査結果】国際線利用者施設等の現状・課題及び対応方針(案)



～訪日外国人旅行者2000万人の受入促進に向けて～

	釧路(H26年国際線:1.1万人)			帯広(H26年国際線:0.4万人)			女満別(H26年国際線:0.2万人)		
	現状	課題	対応	現状	課題	対応	現状	課題	対応
スポット数(国際)	1	国内兼用のためオープンスポットの場合あり。	—	1(中型)	スポットの限定使用	ターミナルビル増築、エプロン拡張。(H29年度供用)	1(国内兼用)	国内兼用のためオープンスポットの場合あり。	—
運用時間(条件含む)	13H(8:00～21:00)	無	—	13H(8:00～21:00)	無	—	13H(8:00～21:00)	無	—
発着枠	無	—	—	無	—	—	無	—	—
PBB数(国際線)	1基	—	—	1基	PBBの限定使用	ビル拡張時増設(H29年度供用)	1基(国内兼用)	—	—
グランドハンドリング状況	2社	自社便優先。個別調整要。	受入の体制作り	2社	無	—	2社	自社便優先。個別調整要。	—
チェックインカウンター(受託手荷物含む)	4箇所(国内兼用)	—	受託手荷物処理の迅速化	2箇所	国内兼用	—	2箇所(国内兼用)	—	—
バゲージクレーム(到着)	1基	スペース狭隘。	臨時スペースの確保	1基	国内兼用、時間限定。	ビル拡張時増設(H29年度供用)	1基(国内兼用)	スペース狭隘	—
保安検査(出発)	1レーン	国内兼用のため時間制限あり。	—	1レーン	国内兼用、時間限定。	ビル拡張時増設(H29年度供用)	2レーン(国内兼用)	—	—
CIQ施設	無	入国審査に時間を要す。臨時審査場を設置。	—	無	臨時審査場を設置	ビル拡張時新設(H29年度供用)	無	入国審査に時間を要す。臨時審査場を設置。	—
Wi-Fi施設	有	時間制限あり。10分以上使用はメール認証。	新たな無線LAN機器導入検討。	有	無制限	—	有	利便性向上の必要がある。	—
アクセス	バス、タクシー、自家用	乗車方法、案内方法等の多言語対応。	多言語対応。連絡バスの増便・臨時便検討	バス、タクシー、自家用	無	—	バス、タクシー、自家用	無	—
団体バス乗降場・待機場	5台(路線バス共用)	—	—	7台	無	—	10台	無	—
構内道路	路駐により混雑	違法駐車対策	—	送迎車両で混雑	駐車場不足	—	混雑なし	無	—
その他	—	多言語対応、礼拝室、ハラル認証、免税売店の設置	—	案内標識は4カ国語対応。	—	—	案内標識多言語対応	—	—

【補完空港のまとめ】外国人旅行者の国内移動の利便性向上に向けて

～訪日外国人旅行者200万人の受入促進に向けて～

- 国内線のみ就航している空港は、稚内、丘珠、中標津、紋別、利尻、奥尻の6空港である。
- 現状でも外国人が空港を利用している状況は想定されるが、実態を把握しきれていない。また、外国人旅行者の受入の検討、又は、外国人旅行者の利便性向上の検討については、ハード・ソフトの両面をゼロベースで検討していくことが求められる可能性がある。
- 当面、外国人旅行者の国内移動の利便性向上に向けて検討すべき事項としては、案内標識等の多言語対応(ソフト面を含む)の拡充やWi-Fi環境の整備・改善等の旅客ターミナルビルのサービスの向上が考えられる。
- なお、検討の促進のため、外国人旅行者数や対応の時期、検討プロセスなど、関係者で目標・指針などを共有することが必要と考えられる。

今後は・・・

基幹空港、準基幹空港と相互に連携しつつ、北海道ブロック連絡会の検討結果や北海道の訪日外国人旅行者の観光誘致、受入の方針等に沿って、北海道全体又は空港毎に、官民一体となり柔軟な発想で検討を進める。

(参考)北海道内空港の利用状況(平成26年度速報値)

単位:人

	新千歳	函館	旭川	釧路	女満別	帯広	稚内	中標津	紋別	利尻	奥尻	丘珠
国内線 旅客数	17,828,712 (101.3%)	1,545,950 (100.7%)	949,645 (95.5%)	667,555 (99.5%)	734,179 (100.6%)	583,049 (102.8%)	182,166 (102.0%)	195,138 (101.2%)	69,479 (123.5%)	37,483 (100.3%)	11,095 (108.1%)	173,920 (107.5%)
国際線 旅客数	1,701,849 (126.7%)	177,807 (127.8%)	160,492 (158.9%)	5,269 (35.3%)	1,990 (- %)	3,540 (27.8%)	-	-	-	-	-	-
合計	19,530,561 (103.1%)	1,727,757 (103.0%)	1,110,137 (101.3%)	672,824 (97.2%)	736,169 (100.9%)	586,589 (101.1%)	182,166 (102.0%)	195,138 (101.2%)	69,479 (123.5%)	37,483 (100.3%)	11,085 (108.1%)	173,920 (107.5%)

(注)下段の()は対前年度比を示す。

道内港湾における 現状・課題及び対応方針(案)

航空港湾ワーキンググループ
平成27年6月

1. アンケート調査概要

調査対象

北海道クルーズ振興協議会の会員 14港湾

⇒小樽、函館、室蘭、苫小牧、浦河、十勝、釧路、根室、網走、留萌、稚内、沓形、礼文、白老

調査内容

海外クルーズ船寄港時の**現状と課題**、**課題に対する対策案**について項目別に調査

⇒係留岸壁、観光案内、岸壁露店、通訳ボランティア、両替、Wi-Fi環境、
繁華街までのアクセス、車両(バス等)待機スペース、外国語案内(看板等)、
市民団体との連携、海外クルーズ船誘致用パンフレット、CIQ など

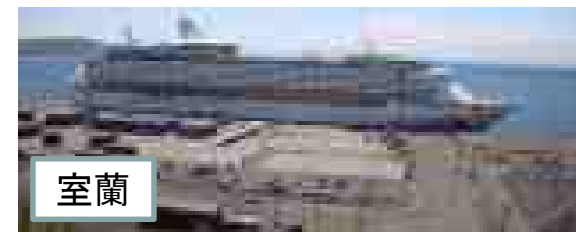
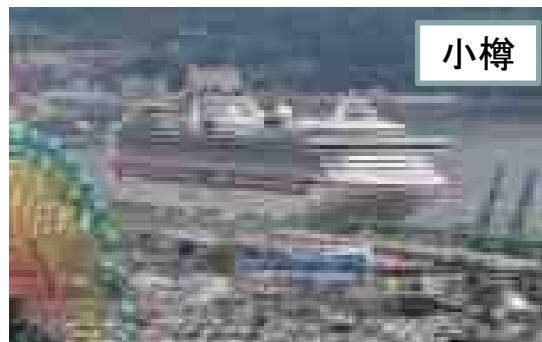
回答状況

回答あり(8港湾): 小樽、函館、室蘭、浦河、十勝、釧路、網走、稚内

このうち、課題ありと回答したのは、**海外クルーズ船の受け入れ経験が豊富な
小樽、函館、室蘭、釧路、網走**の5港湾

近年に引き続き
今年も北海道に寄港する
大型クルーズ船

ダイヤモンド・プリンセス
(乗客定員2,670人、乗員定員1,100人)
今年、小樽、函館、
釧路、網走に寄港



ボイジャー・オブ・ザ・シーズ
(乗客定員3,286人、乗員定員1,200人)
今年、室蘭に寄港

約4,000人の外国人客が一度に上陸

2. 各港の現状

	小樽港		函館港		室蘭港		釧路港		網走港
	第3号ふ頭	勝納ふ頭	西ふ頭	港町ふ頭	旅客船岸壁	崎守ふ頭	耐震・旅客船ターミナル	第4ふ頭	第4ふ頭
着岸できる船の大きさ	～5万トン級	5万トン級～13万トン級	～3万トン級	3万トン級～11万トン級	(白鳥大橋がある為) 全高53.5m未満 全長260m未満 喫水8.1m未満 全てに該当する船	左記以外	～7万トン級	7万トン級～11万トン級	～11万トン級
岸壁のバス待機可能台数	10台	50台	30台	100台	10台	50台	10台	20台	20台
岸壁⇄市街地のアクセス	徒歩5分	徒歩20分又は路線バス10分	徒歩と市電20分	シャトルバス20分	徒歩15分	シャトルバス20分	徒歩5分	シャトルバス15分	徒歩20分
岸壁最寄りのWi-Fi環境へのアクセス	小樽運河プラザ 徒歩5分	岸壁に可動式Wi-Fi設置	赤レンガ倉庫群 徒歩と市電20分	函館駅 無料シャトルバス20分	市民活動センター 徒歩5分	岸壁に可動式Wi-Fi設置	釧路市観光国際交流センターとフィッシャーマンズワーフMOO 徒歩5分	釧路市観光国際交流センターとフィッシャーマンズワーフMOO 無料シャトルバス15分	道の駅(みなと観光交流センター) 徒歩20分
岸壁の観光案内(通訳含む)	ボランティア 市民 約10名 (日本語・英語)		業務委託 「北海道国際交流センター」 約5名 (日本語・英語)		ボランティア 「室蘭市民観光ボランティアガイド協議会」等 約5名 (日本語・英語)		業務委託 「釧路国際交流ボランティアの会」 「釧路観光ガイドの会」 約7名 (日本語・英語)		ボランティアと市等職員 市民・観光協会・市 約13名 (日本語・英語)
市街地等での通訳ボランティア	市が募った市民ボランティア 約3名 @小樽運河プラザ		地元高校生約60名 @JR函館駅		市が募ったボランティア約20名と地元高校生 (※学校として対応可能時のみ) @乗客用バスの各バス停 等		「釧路国際交流ボランティアの会」 約40名 @釧路市観光国際交流センターとフィッシャーマンズワーフMOO内の交流サロン		市が募った市民ボランティア 若干名 @道の駅
岸壁周辺の多言語案内看板等	英語地図のみ有	英語地図のみ有	なし	なし	なし	なし	英語地図のみ有	なし	なし
休日の両替対応	観光協会等で両替実施		なし		一部岸壁露店がUS\$に対応		なし		なし
岸壁露店	土産屋、観光協会による地域物産店等 約4店舗		地域の特産品、パスラーメン等 約5店舗		軽食、土産屋、ポルト人形等 約5店舗		ソフトクリーム・たこ焼き、ラーメン、青果、揚蒲鉾、管内物産品等 約3～8店舗		物産販売、竹とんぼ作成等 約2店舗
市民団体との連携	「小樽クルーズ客船歓迎クラブ」 入港歓迎と出港見送り		「カムカムの会」 入港時に横断幕を掲げて歓迎 「函館クルーズサポータークラブ」 の「見送り隊」が出港見送り		「室蘭港を愛する会」「港立市民大学」等 市民活動センター登録団体が乗客に対し着物の着付け等の歓迎イベント実施と出港見送り		「釧路港おもてなし倶楽部」 入港歓迎と出港見送り 「釧路国際交流ボランティアの会」 観光案内と交流サロンを開設 「釧路観光ガイドの会」 観光案内実施		「ダンスサークル」 「バトンサークル」 出港見送り
海外客船誘致用パンフレット	「環日本海クルーズ推進協議会」として作成 (日本語・英語・中国語)		なし		なし		なし		なし
CIQ	-		-		入出国審査に長時間要した経験有		-		-

3-1. 岸壁周辺の受入環境に関する現状と課題

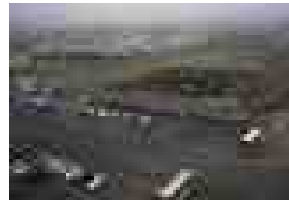
クルーズ船対応岸壁の確保

《現状と問題》

大型船の場合、岸壁の延長・喫水等の不足により、通常クルーズ船が利用する岸壁に着岸することができない場合は、市街地から離れた貨物船用岸壁に着岸している。この場合、日頃から利用している貨物船の運航を妨げることがある。また、岸壁にスクラップ等の貨物を山積みしている場合、景観が悪く、旅客の第一印象を大きく損ねる可能性がある。

《対応方針》

- ・市街地に近接した既存岸壁等の確保の検討
- ・貨物船とのバッティングに関する問題等の情報共有
- ・船舶代理店等との十分な調整
- ・円滑な旅客導線の検討



(函館)スクラップが山積みで景観が悪い

市街地へのアクセス手段の確保

《現状と問題》

市街地から離れた岸壁に着岸する場合、徒歩でのアクセスが行えず、自治体の費用負担により市街地や主要駅を結ぶバスを運行しているが、寄港回数が増えると財政負担が大きくなり、対応が困難となる可能性がある。

《対応方針》 (下線は優良事例あり)

- ・負担低減とサービス充実のためのバスの有料化の検討
 ※室蘭では一日乗り放題・市内循環バス乗車チケット(1,000円/人)を販売して地元バス会社がバスを運行
- ・地域の商店等による支援の検討



(室蘭)バスチケットを岸壁テントで販売

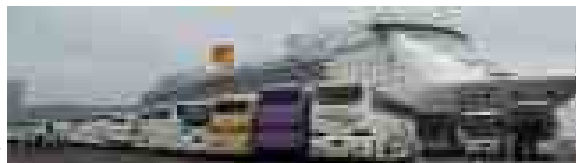
車両待機スペースの確保

《現状と問題》

船舶の大型化に伴い、50台以上のオプションツアーバス・市街地へのシャトルバス・タクシー等の対応が必要となる場合、岸壁の車両待機スペースでは不足が生じる。

《対応方針》

- ・岸壁近郊にバス等の駐車スペースの確保と船内と連携した岸壁までの誘導



(小樽)数十台もの待機バス

Wi-Fi環境の整備

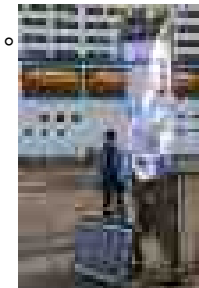
《現状と問題》

船内のインターネット利用料が高額なため、乗客・乗員が寄港地に無料のWi-Fi環境を求める声が多いが、岸壁周辺に十分な利用環境が整備されていない。

また、Wi-Fi環境のある飲食店等に大勢のクルーズ客が押し寄せ、飲食せずに長時間利用する場合がある。

《対応方針》 (下線は優良事例あり)

- ・Wi-Fi利用可能な公共施設等の拡大
- ・岸壁への可動式Wi-Fiの設置の検討
 ※小樽と室蘭では可動式Wi-Fiを複数台設置



(室蘭)岸壁に可動式Wi-Fiを設置

3-2. 外国語等への対応に関する現状と課題

外国語による観光案内

《現状と問題》

海外クルーズ船寄港時は、市民団体が通訳ボランティアとして観光案内を実施している場合が多いが、毎寄港時に必要人数を確保することが困難となっている。

また、近年増加している中国人客への対応のため、中国語対応が必要となっているが、対応できるボランティアがほとんどいない。

《対応方針》（下線は優良事例あり）

・ボランティア団体との連携や業務委託

※函館・釧路では、観光案内を、国際交流関連団体に業務委託し、釧路は団体がボランティアを募集・配置（地元留学生にも協力を依頼）

・高校生や大学生との連携

※函館・室蘭では、地元高校に学校行事として通訳案内を依頼

多言語に対応した案内板の設置

《現状と問題》

市街地への案内については、多言語に対応した案内板等が岸壁周辺にないことから、主にボランティアがパンフレットを使用して案内しているが、船舶の大型化に伴う乗客数の増加により、ボランティアにかかる負担が大きくなる。

《対応方針》（下線は優良事例あり）

・外国人ニーズに応じたマップや案内板等の検討

※小樽商大生が作成

・スマートフォン等への電子媒体でのマップやQ&A等の配布の検討

※釧路ではQRコードを活用して電子媒体で多言語観光マップを配布（日、英、韓、中（繁・簡））

CIQ体制の強化

《現状と問題》

ファーストポートとなる場合は上陸前にCIQを行うが、大型船の場合は手続きに長時間要することがある。

《対応方針》

・関係機関との情報共有等の連携強化

両替対応

《現状と問題》

船内の両替レートが高いこともあり、特にファーストポートになった場合、外国人クルーズ客が十分な日本円を有しておらず、岸壁周辺での両替を希望する声が多い。しかし、金融機関が岸壁周辺にない為、平日は市街地の金融機関を案内しているが、休日の場合は案内先が無く、クルーズ客の消費行動の妨げになっている。

《対応方針》（下線は優良事例あり）

・観光協会等での両替の実施

※小樽では、両替金額上限 \$500/人として、直前金曜日のレートで両替し、パソコンでレシートを作成して対応。

なお、民間企業から寄付で得た偽札判別機を使用。

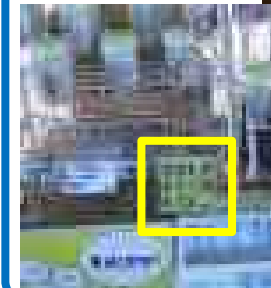
・岸壁露店や商店街でUS\$での商品販売

※室蘭では、後日出店者が銀行で日本円に両替

・岸壁での金融機関の出店

※釧路では、過去に金融機関が岸壁のテントにて両替を行った実績あり

（室蘭）US\$で商品販売



（小樽）観光協会での両替対応

3-3. おもてなしに関する現状と課題

地域の連携強化

《現状と問題》

クルーズ旅客は広範囲で周遊する必要があるが、周辺地域には情報提供が行われておらず、経済効果が十分に発揮されていない可能性がある

《対応方針》

- ・旅客船の情報(乗客数、国籍、オプションツアー等)の関係機関や周辺自治体への提供

客層や国籍に応じた受入体制の整備

《現状と問題》

欧米系の旅客は自然や景観、アジア系の旅客は買い物等、国籍によって行動が異なる。また、カジュアルクルーズとラグジュアリークルーズ等、クルーズ形態によっても旅客の嗜好が異なっている。

しかし、受入れ側の地域では、これらが考慮された体制整備が行われておらず、経済効果が十分に発揮されていない可能性がある。

《対応方針》

- ・客層や国籍に応じた旅客の動向の分析と情報共有
- ・客層や国籍に応じたおもてなし内容の検討

港湾間の連携強化

《現状と問題》

北海道の港湾に複数寄港するクルーズが設定されるが、入港時のイベント等は同様なものが実施される場合がある

《対応方針》(下線は優良事例あり)

・道内寄港港湾のイベント等に関する情報共有

※平成26年6～9月に渡り実施されたサン・プリンセス北海道定期定点クルーズでは、北海道クルーズ振興協議会が事前に各寄港地の関係者との情報共有を図り、港湾毎にイベント内容の調整を行ったことでイベント等が重複しないバランスのとれた受入体制を構築した

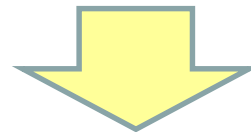
4. 今後の進め方(案)

北海道クルーズ振興協議会の港湾管理者の
実務担当者を中心とした推進体制を構築

事務局：北海道運輸局・北海道開発局

- ① 情報共有
 - ・具体的な問題や優良事例
 - ・国土交通省による調査結果・ヒアリング結果
 - ・国土交通省の取り組み
(外国人旅行者向け消費税免税店制度、
海外おみやげ宅配便)

- ② 港湾間連携
 - ・イベントの調整



課題解決のための対応方針の実施

